

## 令和5年度住民懇談会「第2回といかん本音トーク」報告書

実施日時	令和5年6月21日(水)	①13:30~15:00 3名 ②18:30~20:00 10名
実施場所	問寒別生涯学習センター	

6/3開催の「といかん・みんなの市」を振り返り、次回開催時にやってみたいことや改善点などについて意見交換を行いました。

また、6/1開催の「地域づくり講演会」を振り返り、感想や危機意識の共有し、地域団体の活動等を洗い出しや見直しを行い、これまでやってきたことの重要性や意義を再確認し、活動の趣旨を大切にしながら「重ねる・間引く」ことを次回以降考えることになりました。

### 1. 住民懇談会「といかん本音トーク」の趣旨説明

- (1) 自己紹介
- (2) 趣旨説明
- (3) 6/16 付け着任の地域おこし協力隊員の紹介

### 2. 6/3開催の「といかん・みんなの市」の振り返り

- ・みんな楽しんでいた。
- ・今回は市街地の端での開催のため場所が分かりにくかった。
- ・机や椅子がその場にあるので出店側はやりやすかった。
- ・次回は8月末~9月上旬に開催したい。夏の開催時はフリマをメインにし、新たな出店者の参加を目指したい。

### 3. 6/1開催の「地域づくり講演会」で話を聞いてみて・・・

- ・集落で抱える危機意識の共有ができた。
- ・これから住民がどのように参加できるかを考えていく。
- ・既存の団体と地域運営組織との関わり方も様々な選択肢を持って検討していく。
- ・年代別会議を開催して、それぞれの世代によって異なる考え方を把握し共有していく。

### 4. 「といかん共同果樹園」について

- ・7/1(土)にコスモスの種まきとブルーベリーの植樹を行う。
- ・学校に協力してもらい、チラシを児童・生徒に配布する。
- ・作業はしなくても見るだけでいいのでぜひ来ていただきたい。
- ・収穫ルールや手入れなどについては未定なので今後の住民懇談会で話し合っていく。

### 5. その他

- ・次回は7月11日に開催予定。
- ・参加者数によってはグループでの話し合いも取り入れたい。

## 令和5年度住民懇談会「第2回といかん本音トーク」報告書

実施日時	①令和5年5月21日 13:30~15:15
実施場所	問寒別生涯学習センター
参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民3名</li> <li>・集落支援員:安東 勇人 氏、三田地 和美 氏</li> <li>・北総研:石井 旭 氏(ファシリテーター)、小野塚 仁海 氏</li> <li>・(株)やまち:神長 敬 氏(ファシリテーター)</li> <li>・役場企画政策課:山下室長、秋山主査、喜多主査、渡邊主事、出口隊員</li> </ul>

### 【懇談会概要】

#### 1. 住民懇談会「といかん本音トーク」の趣旨説明

(1) 自己紹介

(2) 趣旨説明

(3) 6/16 付け着任の地域おこし協力隊員の紹介

#### 2. 6/3 開催の「といかん・みんなの市」の振り返り

- ・地域交通の臨時便を運行したが、予約は入らなかった。当日は小学生1名が利用したのみだった。前回は雨のため小学生数人が利用していたが、今回は雨が降らなかったので利用なかった。
- ・市街地の中心から離れているため集客率は低かった。分かりにくい。目立たない。
- ・新聞を見て中頓別から来ていた人は場所が分からず周辺をうろろうろしていたようだった。
- ・時期的にもどんな野菜が出てくるかイメージしにくい時期の開催だったのかもしれない。そう考えると前回のようになんと覗いていくという場所ではなかった。
- ・販売スペースの余裕は結構あった。夏や秋で野菜が増えたら足りないかもしれない。
- ・間仕切りの奥の部屋では子どもたちが遊んでいたり休憩コーナーがあった。
- ・午前中はたくさん来ていたが、午後はあまり来なくなった。
- ・中で買ったアスパラやタケノコなどを玄関先で焼いて食べられるようにしたので話題性はあった。
- ・神長氏:とてもいいものばかりで驚いた。芽室町上美生地区のお店の事例では、野菜の仕入れが難しく、地域の農家の方々の野菜を「ほしぞら市場」というコーナーを作り販売していた。「といかん・みんなの市」は山菜も沢山あってとても良かった。  
上美生地区ではこういったイベント等を開催する時は、ござを敷いておもちゃを持ち寄っておいて置き、子たちの遊び場を準備し、遊んでいる間に親が買い物できるようにしている。  
Q マートに地元の野菜を置けたら良いと思った。
- ・次回はトマトやきゅうりなど夏野菜の美味しい時期に開催出来たら良いと思う。

#### 3. 6/1 開催の「地域づくり講演会」で話を聞いてみて・・・

(山下室長から講演内容の振り返り説明)

- ・参加した方々が関心を持って、驚きながら話を聞いていた。
- ・今も昔も地域を支えている65~75歳の方が減ってしまう。  
→自分がその世代なので「ああ」と思って聞いていた。
- ・ノウハウや実動などこの世代が担ってきたものが多かったと思う。  
今すぐ考えていかないと2030年はすぐに来てしまう。

・参加者の感想では「どうしよう」「これは大変なことになる」という危機意識を持っていた。「なんとかしなきゃいけないけどどうすればいいのか分からない」という方が多かった。

・川北氏の話の中で「重ねる・間引く」という話があったが、地域によって違うので皆さんで考えていかなければならないと思った。

・石井氏：年代別で集まって考えていくというのはどうか。年代によって考えていることは違ってくる。危機感を共有できているということが分かったので、どのようにして解決していくのか考えていく。

例えば草刈りにどのくらいのマンパワーがかかっているのか見える化(数値化)していき、議論していきたい。そこで同じことを別々にやっていることも分かってくると思う。

・各団体やサークルの代表者や役員を集めて棚卸することも必要だと思う。同じ人が色々な代表をやっていることもある。

・誰がそれぞれの地域活動に関与しているかを把握し、人の被りの見える化も進めるべき。

・老人クラブは、活動が多すぎて会長になりたくない、役員になりたくないという人も。新しい人が入ってこない。

・人工計算を進めているが、おひさま子育て会のように毎週活動している団体や盆踊りに向けて動いている人数が見えてくる。老人クラブは活動が減ってきていて、すでに老人クラブでは重ねたり間引いたりし始めているのかもしれない。

(団体・サークルの活動状況について)

・運動系サークルは、パークゴルフとミニバレー。そのほかカラオケ、釣り、スノーモービル、チーズ、手芸、陶芸などがある。(文化系サークル6団体)

・サークルとワラベンチャーのコラボもいい効果になっている。

・効率化や組み合わせ可能性について踏まえながら棚卸していく。その中で活動の目的を再確認することも重要なステップ。

・パークゴルフ愛好会：現在 33 人くらい加入。多い時は 100 人くらいだった。7~8 名で準備しているが、景品の準備が大変。年会費制。

ポスター部隊(事務局長：現在は郵便局長)や集金部隊がある。

・消防団：年3回集まる(春、夏、正月の出初式。訓練は年間4回)

・石井氏：このように各団体がどのような活動をしているか洗い出していきたい。楽しむことを失わずに、なぜこれをやっているのか目的を再確認していきたい。

年代別会議を開催したいが、若い人たちが集まるタイミングは？農協青年部の活動は？

→毎月あるわけではない。農協にお願いすれば集まるかもしれない。15時から牛舎が始まるので、昼の時間(13時~15時)でないと難しいかもしれない。搾乳が終わる時間も農家によって違うので夜は難しいかも。いいお酒を準備してでないと集まらないかも。

→神長氏：上美生地区も酪農と畑作の地域で、お酒付きで19:30からや 20:00 から始めている。

・市街地の若い人のなかでも学校の先生はワラベンチャーなどで関わることもある。研究林にも若い人が多い。あとはウタラといかんやメモトック。

→神長氏：先生方はPTAや学校から声かけてもらったりもできるのでは。

・人集めで困ったときは斎賀さんに話を通してもらえたら集まりそう。

・神長氏：上美生地区では、連合町内会のようなところが各団体の代表を年1回集めて意見交換会を3年間続けている。行事をやるのが大変とか担い手がいないという話になっていく。

→石井氏：審議会が同じような立ち位置かもしれない。審議会の場を使ってもいいかもしれない。

#### 4.といかん共同果樹園について

・喜多主査:7/1 にコスモスの種まきとブルーベリー植樹会を開催する。一人1株くらいを皆さんに植えてもらうような形で行う。合計 75 株。日々水をやる植物ではないので根が張るまでのみ準備した桶などで水やりを行っていきたい。子どもたちに参加してもらいたいのでぜひお声掛けを。

・石井氏:果樹園の近くに作業拠点があるといいよねという話を次回の本音トークで話していけたらと考えている。

#### 5.その他

・次回は 7/10 の週に開催する予定。

・(開催方法について)

机の配置をもっと小さな円の並べ方にした方がいいのでは。

令和5年度住民懇談会「第2回といかん本音トーク」報告書

実施日時	②令和5年6月21日 18:30~20:20
実施場所	問寒別生涯学習センター
参加	<ul style="list-style-type: none"> <li>・住民10名</li> <li>・集落支援員:千葉氏、安東氏、三田地氏</li> <li>・北総研:石井 旭 氏(ファシリテーター)、小野塚 仁海 氏</li> <li>・(株)やまち:神長 敬 氏(ファシリテーター)</li> <li>・役場企画政策課:山下室長、秋山主査、喜多主査、渡邊主事、中井隊員、出口隊員</li> </ul>

【懇談会概要】

1. 住民懇談会「といかん本音トーク」の趣旨説明

(1) 自己紹介

(2) 趣旨説明

(3) 6/16 付け着任の地域おこし協力隊員の紹介

2. 6/3 開催の「といかん・みんなの市」の振り返り

- ・開店と同時に行った。みんな楽しんでいた。
  - ・家の近くで楽だった。少し野菜などを買った。
  - ・山東菜やティッシュカバー、シイタケを買った。鹿の角ストラップも魔除けになるから買った。
  - ・場所に馴染みがあった。駐車場があり、車も停めやすかった。
  - ・準備も簡単で良かった。室内の間仕切りをとって店との間隔を広くしても良かったかもしれない。
- 今回フリーマーケットやっている方がいたけど本当はダメにしていた。準備してしまっている人にダメだよとは言えなかった。次やるときにはフリーマーケットの場所も作ってあげてもいいかもしれない。手芸さんもスペース広げられたらもっと良かったかと思う。トイレもあるし駐車場もあって、テーブルやいすもあるので良いと思う。
- ・町民会館を使う機会が減ってきているので使えて良かった。段差があったり、お年寄りの手すりがないので大変そうだった。
  - ・野菜は外で売ってもいいかもしれない。
  - ・メモトック:たくさん売ろうというよりもこういうことをやっていますという PR として参加した。
  - ・机を運び入れなくていいのは楽だと思う。
  - ・駐車場を考えると広いところの方が良いと思った。
  - ・看板の掲示や当日の周知方法があれば良いと思う。やる日を忘れていた人もいた。
  - ・一通り見たら帰るといった選択肢しかないのがもったいないので、少しのんびりできる場所があったら良いと思った。
  - ・川北氏の講演であったように、買い物に来るだけでなくお話できる場所があれば良いと思った。
  - ・子ども達が楽しんでいた良かった。お小遣いを握って手芸作品や鹿の角ストラップを買っていた。
  - ・休む場所を作っていたが、出店者の食事を作っていたので伝えられなかった。休んだのは川北氏だけだった。
  - ・問寒別の子どもたちはほとんど全員来ていた。

- ・決まったお小遣いを持ってきて、初めの方で使いすぎて子どもが大人に値切り交渉していた。(次回に向けて)
- ・子どもたちがせっかく来てくれているので、子供たちが楽しめる場所を作りたい。
- ・フリマコーナーが一番賑わっていて、意外なものが出てくるので楽しかった。このままといかん市を続けていくとメンバーが固定化していきそうなので気軽に参加できるように夏に問寒別に関係する人限定でフリマもやってみたい。
- ・次回は夏で、秋は去年と同じくらいの時期にできたらいいと思う。
- ・夏はフリマと夏野菜の出店が増えそうなので広いスペースが必要だと思う。
- ・雨じゃない限り原則屋外で開催でもいいかもしれない。
- ・盆踊り後の8/26か9/2あたりでやれたらいい。
- ・みんな野菜作っているから売れるのか…
- ・神長氏:初めて山東菜を食べた。上美生もコンビニで売っているものは卸屋から仕入れるが、地域のお年寄りが育てている野菜を持ってきてくれて売ることができるようになった。それがすごく人気になった。野菜が安定して売れている。といかん市は山菜も売っているのが魅力的だった。

### 3.6/1 開催の「地域づくり講演会」で話を聞いてみて…

(山下室長から講演内容の振り返り説明)

- ・自分も70歳以上なので、他の人がやったことで面白いことは摘まんでやったりしていたが、自分も出来る範囲のことは協力的にやれるかなと思った。
- ・人生100年なので色々な関わり方を出来たら良いと思う。
- ・2040年はどうなっているかを考えて危機感を覚えたがどうすればいいのか聞きたかった。今すぐ取り組まないとダメだと思う。
- ・手伝いたいけど80歳近くなったら自分の身体を守ることしなないとならない。ブルーベリー畑に行きたいが、春になったら急に足腰が弱くなってしまった。出たいけど何ができるか…  
自分たちの畑の草取りもできない。階段も大変。気持ちはあるけど手伝いに行けない。  
邪魔になったら困るなど思ったり。
- 神長氏:同じようにしなくてもいい。地域のノウハウを伝えるなどでいいと思う。
- ・昔からやっていたことを今もやろうというのがありすぎて役職と会議が多くなっている。4月も毎週会議があったりした。45歳というだけで役が当たる。
- ・交通安全関係の会議で、4年間コロナで書面開催で不具合が無かったなら今後も書面開催でいいのではという話を聞いて確かにと思った。(結局書面開催になった)
- ・共同果樹園は、何を手伝ったらいいかということより、楽しんで家を出る機会をつくるのが目的で、本気で農業をやるわけではなく、ちょっと集まって1本植えるとかなので、ちょっと行事に顔出してくれるのが最大の協力だと思うので参加してもらえたらと思う。
- ・人口が減る中で若者ができるのは地域に人を連れてくる(社会増)がメインになってくると思う。参加意欲の熱量は自分は平均だと思う。同じくらいの熱量だと連れてきた人たちも参加しやすい。
- ・1年に1回来てもらって、来る人に価値(魅力)を与えられたら。
- ・数字で出してくれたので分かりやすかった。地元京都も景色は変わっていったが、過疎が進むことには鈍感というか危機感がないと感じた。
- ・社会的弱者をどう支えたらいいのか考えた。仕事も生活も同じ場所でするのは難しいと思ったり、他所に働きに行っても住めるといかんってどんな形だろうか。
- ・京都に帰ると田舎に興味を持っている人や夏暑いから避暑しに行きたいという話もあり、1シーズ

ン住める場所があれば良いと思った。雪かきしてみたい人もいた。糠南クリパ参加の人もちょっと休んで雪かきしてくれたらいいのに。

- ・石井氏: といかん市とそういう人たちの社会進出を重ねてみるのも積極的にやっていると良いかも。

川北氏は血圧測定と言っていたが。

- ・胸にナイフが刺さりっぱなしで、昔、食改でも血圧測定するなど一緒にやっていたが、人手不足でやめてしまった。

- ・今、まちづくりをしようとしているけど、若い世代に・世代交代ができなかったら終わってしまうと思う。若い人たちにもっと参加してほしい。参加してもらうためにはどうすればいいのか。

- ・体を動かすだけが協力じゃない。若い人たちにノウハウを教えてあげるだけでも協力になる。家から一歩でること、それには何ができるかを考えていきたい。

(これから)

- ・石井氏: 「何かしなきゃ」と思っていると思うので、地域で取り組んできたことを見直し、これまでやってきたことの重要性や意義を再確認すること、その上で趣旨を大事にしながら「重ねる・効率化する・間引く」を考えていくことを具体的に進めていけたらと思う。

現在、地域にどんな活動があるのか洗い出しを行っている。皆さんの中で課題、疑問に思っていることを話し合う場として次回以降話していきたい。

各種団体があるが、それぞれやっていると課題が出てくるので、いきなり団体を束ねるというわけではないが、効率化できることは地域運営組織でやってもらうという手法もある。

川北氏の講演で世代別会議という話があったのでそういうものを企画して討論会のようなものをやれたらと思うがどうだろうか。

- ・若い世代を集めるのが苦勞しそう。農協青年部に声掛けした方が良いかもしれない。
- ・研究林には 20~30 歳代の人がいるはず。学校の先生に 20 歳代はいないはず。
- ・参集方法は個別に相談していく。団体ごとに集まる方法もあるが、世代別でやってみたい。
- ・次回の懇談会も参加者が多ければグループに分かれて話し合いができたらいいかもしれない。

#### 4. といかん共同果樹園について

- ・喜多主査: 7/1 にコスモス種まきとブルーベリー植樹イベントを開催する。

これからチラシを学校に配布を依頼したり、各戸に配布する。

おおよその準備は役場職員等で進めておく。

- ・実がなったらどうするのか、収穫のルールはこれから考えていく。
- ・冬囲いなどについても最終的には住民でできるようにしたい。
- ・作業時の周知方法や連絡体制について今後検討していく。(事務的なことを誰がやるのかなど)
- ・石井氏: 植樹イベント終了後の懇談会で作業拠点のようなもののあり方についても考えていきたいので、拠点のイメージも考えながら作業に参加していただけたらありがたい。

#### 5. その他

- ・次回は7月11日に開催予定。





(まとめ 夜の部)

